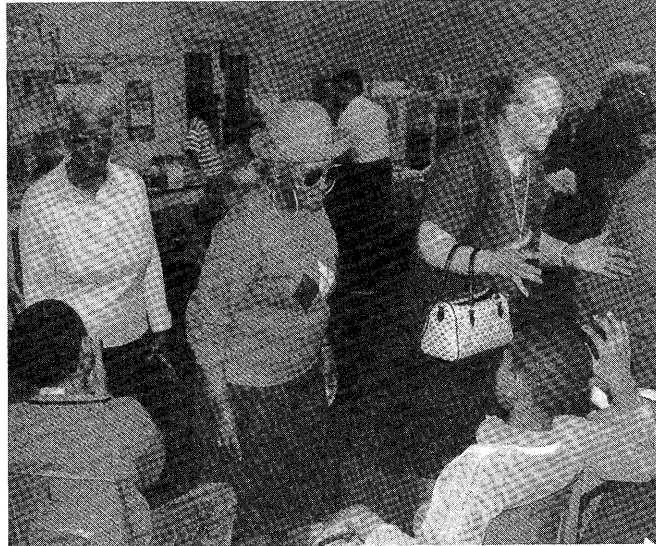


## V. AUTUMN STAGE

素人の高齢者をボランティアとしてリクルートし、語りべや即興劇の役者にトレーニングし、高齢者用施設などへの慰問公演ツアーを行っている。劇場やホールなどの活動拠点を持つボランティアではないが、即興劇というパフォーマンス・アーツと高齢者の生きがい再発見が結びついたユニークなボランティア活動と言える。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	The Encomium Arts, Inc.
所在地	PO Box 43296, Upper Montclair, NJ 07043
TEL	201-746-5184
FAX	201-746-2833
開館年月	1985年
年間予算	年間約1,000万円
組織体制	有給スタッフ：6～8名



### 😊 ボランティア制度の概要

名称	・Autumn Stage
導入時期	・1990年（ツアー公演の開始）
登録人数	・30～100名（年によって異なる）、年齢は60～80才。うち劇団員は20名弱、平均婦負例76,7才。
導入の経緯	・ある企業から15人乗りのバンの寄付を受けたことがきっかけ。
活動内容	・ニュージャージー州の中の養老院や病院、デイケア・センター、公民館、診療所、YMCA、大学の演劇科、高齢者社会問題科などで即興劇を上演。
募集方法	—
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番最初の面接を兼ねたワークショップで「即興とは何か」を理解するための体験トレーニングを行う。</li> <li>・素養のある人は、プロの役者のもとで継続的なトレーニングを行う。</li> </ul>
実費支給	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者用施設を訪れて公演を行うことによって、同じ高齢者がエネルギーに生きている、長い人生経験が“即興舞台”の素材になるなど、施設の高齢者が元気づけられることが多い。</li> <li>・公立学校や大学生を対象に行われる公演では、昔の生活・文化を伝えるという意味あいも生じる。</li> <li>・1989,95年度のニュージャージー州ボランティアプログラムの州知事賞を受賞。</li> <li>・メンバーの体調不良や資金不足なので本年度の活動は停滞気味。</li> </ul>

## インタビュー記録

- ・訪問先：The Encomium Arts, Inc.
- ・住所：PO Box 43296, Upper Montclair, NJ 07043
- ・電話：201-746-5184 FAX: 201-746-2833
- ・面会者：Dr. Rosilyn Wilder…創業者・主力運営者

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立、予算規模等

- ・設立年：1985年
- ・有給スタッフについて：
  - ・今年度は通常より活動が停滞ぎみであるが、通常（健全時）の運営状態の「有給スタッフ」は、①年間のスケジュールとブッキングを調整・管理する者、②アート・コンサルタント（即ちプロの俳優、演技指導やデモンストレーションにあたる者のこと）の2種類。
  - ・②のスタッフについては、日当ベースの雇用。通常いちどきに6～8名を雇い、それらが二つのチームになって指導にあたる。二つのチームは、それぞれ“異なる文化テーマ”を扱うようにする。
  - ・①のオフィス・ワークは、さらに名簿上30～100人のシニア・ボランティアによってサポートされている。
- ・年間予算について：
  - ・今年度は活動が停滞しているが、最も活動が盛んだった年の年間予算は、9月のシーズン始めから翌年6月のシーズン終了時までの1年間で、公演のための予算が\$70,000～\$110,000、事務経費（電話代／郵送費／人件費／リハーサル・スペース代等）が一公演あたり\$50～\$750。公演現地への交通費は、上記に含まれない。

#### (2) The Encomium Arts の活動

##### ① Respect for Diversity リスペクト・フォー・ダイバーシティ

- ・小学校高学年～中学生を対象とするプログラム。地元の高齢者と一緒になって演劇づくりをする。

##### ② Autumn Stages オータム・ステージ

- ・演劇には素人の高齢者をボランティアとしてリクルート。彼らを、語りべや即興劇の役者にトレーニングして、高齢者用施設などへの慰問公演ツアーを行うプログラム。以下の報告は、この「オータム・ステージ」についてのもの。

### 2. オータム・ステージの活動内容

#### (1) 面接&ワークショップ

- ・ボランティア・スタッフの対象は、演劇の素養を持たない素人で、かつリ

タイアした高齢者。年齢は60歳以上～80歳代半ばくらいまで。

- 一番最初の面接を兼ねたワークショップでは、「即興とは何か」を理解してもらうための体験トレーニングを行う。

\*注：このワークショップ及び後述のトレーニング・セッションの見学を予定していたが、96-97年度の最初のワークショップ（11月）には参加者の多くが体調を崩したため中止になった。次のワークショップの予定は12月現在でまだ未定。昨今の文化関係への助成金縮小化のあおりをうけて本年度の予算がまだ決定できない状態で、そのため、活動は少々停滞ぎみのように見える。

## (2) ロザリン博士の説く「即興とは何か」：

- 「即興」とは、予定していたこととは違うことに直面した時にとる行動すべてを意味する。午後から始まるワークショップでは、「今朝から現在までの時間で、朝起きた時に予定していたのとは違うことが何かありませんでしたか？」といった問い掛けから始まる。集まったボランティア志願者たちは「昼ごはんを抜いてしまった」「友人の〇〇が電話でつかまらなかった」などと答える。「それで、あなたはどうか対処しましたか？」とロザリン博士が問う。「スナックを買って食べ食べここに着た」「代わりに△△のところへ言付けを頼んだ」などの解答が返ってくると、「それが！、『即興』ということなんですよ」と説明する。
- こうしたことから、「即興」ということが特別な技術や才能の要ることではなく、誰にでもできること、誰でもが人生の中で普通に行っていることだということを体得してもらう。
- 観客を参加させて行うオータム・ステージの即興劇も、「予定していたことと違うことに対処し続けること」から完成する舞台である。従って、特別な技術や才能など必要なく、人生の長い経験＝すなわち多くの“即興”をこなしてきた高齢者であれば誰にでもできることだ、ということを読む。
- 「誰にでも」とは言え、向き／不向きはある（例えば、科学者のような“分析型”の人は不向きとのこと）。「不向き」の人は、ツアー公演のブックイング担当、チケット・セールス担当、DMやチラシの配付郵送担当などにまわる。

## (3) トレーニング・セッション

- 「向いている」人は、Encomium Arts が雇ったプロの役者のもとで継続的なトレーニング・セッションに参加。トレーニングの内容は、「語り」「即興」「舞踊」「マイム」「発声練習」など、個人の資質により異なる。特に「即興」のトレーニングについては、プロの役者がみずからさまざまな短い即興劇をデモンストレーションして（いかに即興劇が難しいものではないということを見せる、という方法で指導する）。
- シーズン中は月に3回～5回の顔合わせを兼ねたトレーニング・セッションがあるため、ボランティアとはいえ、相当な度合いの傾倒（コミットメント）がないとメンバーを務めるのは無理。
- トレーニング・セッションは、大学の演劇部の生徒や地元住民の参加も可。

## ■ Autumn Stage

主要スポンサーであるニュージャージー州のブルームフィールド・カレッジの講堂で行われることが多い。

### 3. オータム・ステージの公演内容

#### (1) ツアー公演

- ・ツアーの開始は1990年以来。ある企業から15人乗りのバンの寄付を受けたことから始まった。
- ・おもな公演場所はニュージャージー州の中の養老院や病院、デイケア・センター、公民館、診療所、YMCA、大学の演劇科、大学の高齢者社会問題科、高齢者問題に関するセミナー・コンフェレンスなど。

#### (2) 公演の内容

- ・公演はたいてい2時間。最初は、ボランティア・メンバーが自分の人生のひとコマを語る「ライフ・ストーリー・テリング」で始まる。
- ・語りの内容は、「子供だったころに毎朝魚売りがやって来て……」「少女のころ、カーテンを取り替えなさいと母親に言われたけれどプッシュピンがみつからなくて……」といった他愛のないものが多い。が、そんな中にも、「そういえば昔は魚売りなんてものがあつたなあ～」「カーテンレールなんてのがなくてそういえばプッシュピンを使つてたっけ…」といった思いを観客に喚起させるヒントが潜んでいる。
- ・「誰かカーテンをつけるの手伝ってくれる人、いませんか？」といった展開で、観客の舞台への参加を呼び掛ける。舞台上上がった観客のセリフ、身振り、動作などに応じて、“即興”でストーリーを展開して行く。

● Life Drama における即興劇の様子

- Come, Step Into My Life by Rosilyn Wilder, New Plays Book, 1996- より





● ツアー10周年を祝うオータム・ステージ座のメンバー  
- Come, Step Into My Life by Rosilyn Wilder, New Plays Book, 1996-より

### 3. 劇団員ボランティアのプロフィールと動機

#### (1) プロフィール

- ・現在劇団員となっているボランティア・メンバーは、約17～20名ほど。核となっているメンバーは7名。年齢層は62歳～80歳代半ばまで。平均76、77歳。ボランティア・メンバーの最長歴は11年。
- ・典型的な劇団員像というものはない。現役時代の職業も様々、現在の家族構成も独り者あり、子供と妻と暮らす大家族の者あり、老夫婦者あり、という具合に様々。

#### (2) 動機

- ・「Now is the time to give back (世の中にお返しをする時期だ)」というのが、オータム・ステージのボランティア劇団員にとっての参加の動機。
- ・「老人はこうあるべき」という通念に押しまかされたくないという思いのある人が多い。

### 4. プログラムの意義

- ・ニュージャージー州のような一般的なアメリカでは、高齢者の楽しみは、食べることやギャンブル(カジノなど)、井戸端会議など、“非生産的なこと”に集約される。この有り余る時間を“生産的な行為”に費やすことは、高齢者自身にとっても人生の張り合いとなり、また社会全体にとっても意味がある。

## ■ Autumn Stage

- 高齢者用施設を訪れて公演を行うことによって、施設の高齢者が元気づけられることが多い。「同じ高齢者がエネルギーに生きている」「長い人生経験が“即興舞台”という生産的な材料になり得る」という事実が、世間を忘れて施設内に埋没してしまいがちな彼らを鼓舞するとのこと。
- 公演が、公立学校の生徒や大学生を対象に行われる時には、「昔の生活・文化を語り伝える」という意味合いも生じる。特に、最近の（アメリカの）子供は、親の離婚、家庭の崩壊、両親の共働き、核家族化といった現象のせいで、過去と現在の自分との接点を持たず、そのため過去を通じて現在の社会を眺めるという視点も持たないままに育つケースが多い。高齢者による生の語りとそこに派生する“即興”のライブ感は、このような社会問題を改善するひとつの対策でもある。
- 1989年度及び1995年度の「ニュージャージー州・ボランティア・プログラム」の“州知事賞”を受賞している。

## 5. 類似のプログラム

- リタイアした高齢者をパフォーマーに仕立てるというボランティア・プログラムは、米国ではある程度一般的な事業のようである。類似のプログラムには、以下のようなものがある。

### ① 60 KARATS

- 1987年に、ヴァージニア州アーリントン市でスタートしたプログラム。60才以上のボランティアたちがタップダンスを演じ、ギャラも観賞代も無料の公演を行うというもの。ただし、任意の鑑賞代は受け取る。受け取った観賞代は寄付金の扱いで、運営費にまわる。
- 公演の場所と機会は、主に養老院やその他の施設でのチャリティ・イベント。
- トレーニングは週2回。

### ② Senior Active Program of the Barn Players

- 1978年に、カンサス州メリアム市で、25任のリタイアした高齢者たちが自ら集まって作った集団。
- 30分の短いオリジナル劇を6本ほどレパートリーとして持つ。テーマはいずれも「高齢」に関するもの。ギャラは無料。観賞代は10ドル～25ドルの間で、すべて劇団の運営費にまわる。
- 公演の場所と機会は、主に養老院、学校、その他の施設。
- トレーニングは週に最低3回。月に最低2海野リハーサルを行う。学校施設などで公開リハーサルを行うこともある。

—以上—